

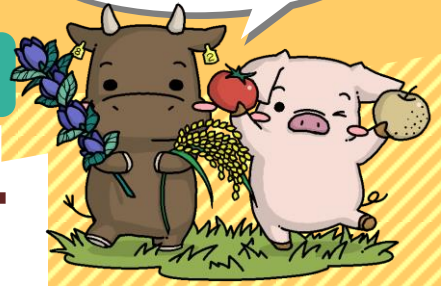
普及だより いわき

2018年9月発行

No.151

サンシャインいわき!

笑顔あふれる
農林業をめざして!



魅力再発見! 「天のつぶ」!!

農家のみなさま。

平成29年度産米の収穫時期を思い出してみてください。8月からの長雨・寡照の影響で多くのほ場は倒伏していた中、「天のつぶ」のほ場は「天に向かって、まっすぐと」生長し、収穫の時期を待っていました。



平成29年度収穫時期の倒伏度合い比較写真

「天のつぶ」の生産者に話を聞くと「刈取が効率的に出来た」、「倒伏しないので毎年同じ品質・食味で栽培できる」といった声が多く寄せられています。

この品種特性が多く生産者に支持され、いわき市での栽培面積は平成29年には431ha(平成26年度の2.4倍)にまで拡大しています。

業務用としても引き合いの多い「天のつぶ」は、農家の皆様の経営に力添えできる品種であると自信を持っておすすめできる品種ですので、ぜひとも「天のつぶ」の栽培をよろしくお願ひします。

なお、「天のつぶ」は倒伏しづらいことから、多収をねらって過度な多肥栽培をすると食味低下を招くおそれがありますので、適正な施肥量を守って作付けしてください。

編集・発行

福島県いわき農林事務所 農業振興普及部

電話 (0246) 24-6160 農業振興課

電話 (0246) 24-6162 地域農業推進課

電話 (0246) 24-6161 経営支援課

FAX (0246) 24-6196

E-mail shinkouhukyu.af07@pref.fukushima.lg.jp

目次

1頁

■魅力再発見! 「天のつぶ」!!

福島県オリジナル品種「天のつぶ」の魅力をご紹介します!

2頁

■認証GAPを取得しませんか!

■平成30年度も米の全量全袋検査に御協力をお願いします

■平成30年度の緊急時環境放射線モニタリングについて

3頁

■農作業事故にご注意ください!

■農薬適正使用について

■薬物野菜の衛生管理の徹底について

■イノシシ対策のポイント!

4頁

■普及員からのひとこと

各担当主任からのお知らせです

■お知らせ

- ・いわき農業青年クラブ会員募集!
- ・農業経営相談所が設立されました!
- ・エコファーマーになりませんか!

認証 GAP を取得しませんか！

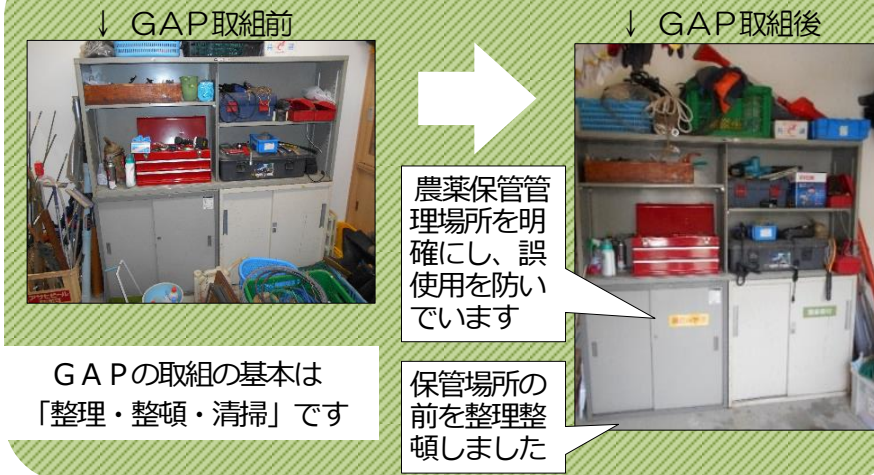
GAPとはGood（良い）Agricultural（農業の）Practice（やり方）の略称で、食品安全・環境保全・労働安全を3本柱に、農作業の管理ポイントを整理・実行・記録することです。

福島県では、農業者の皆様の経営改善のため、農林産物の安全性の証として認証GAPの取得を推進しています。「GAPに興味があるが、具体的に何をすればいいのかわからない」、「認証GAPを取得したいが、どのように進めていくのかわからない」方は、経営支援課（きのこ類は森林林業部林業課☎24-6193）が中心となり、皆様のGAPの取組を全力でサポートいたします。

なお定期的にGAPに関する研修会を開催しますので、いわき農林事務所のホームページをご覧ください。

また、福島県では、認証GAP取得に要する費用を補助する「第三者認証GAP取得等促進事業」を展開しております。補助対象は、検査費や認証審査費等です。詳細については農業振興課まで、お気軽にお問い合わせください。

GAP事例（福島県立磐城農業高等学校）



↓ GAP取組前

↓ GAP取組後

農薬保管管理場所を明確にし、誤使用を防いでいます

保管場所の前を整理整頓しました

GAPの取組の基本は「整理・整頓・清掃」です

平成30年度も米の全量全袋検査に御協力をお願いします

平成30年産米の全量全袋検査については、平成29年産米と同様に全ての米を対象として検査を実施することとしております。

そのため、平成30年産米については、引き続き、出荷販売される米だけでなく、自家消費米・縁故米も含めてすべての米について検査を受けてくださるよう、お願いいたします。

今後の検査の方向性

全量全袋検査の結果を確認しながら、通算5年間基準値超過がない時点を目途にモニタリング（抽出）検査に移行いたします。

検査持込みの際のお願い

古い米袋や一度使用した米袋の使用は避けてください。古い米袋や一度使用した米袋は汚染されている場合があります。玄米が非検出でも、検査装置が反応する場合があります。



30年産米の検査は「水色」のバーコードラベルです



平成30年度の緊急時環境放射線モニタリングについて

野菜・果実のモニタリング

いわき市内で出荷及び販売される野菜・果実の安全性を確認するために平成30年度もモニタリングを実施しています。安全性を発信するため、皆様におかれましては引き続きモニタリングへのご協力をお願いいたします。（担当：経営支援課）

穀類のモニタリング

いわき市内で生産される穀類（大豆・麦類（小麦・大麦）・秋そば）については、いわき市全体から各1点検体を採取し、モニタリングを行います。穀類は、いわき市産の検体すべてが基準値以下であることが確認できるまでは、出荷や販売はできません。（担当：地域農業推進課）

山菜・きのこのモニタリング

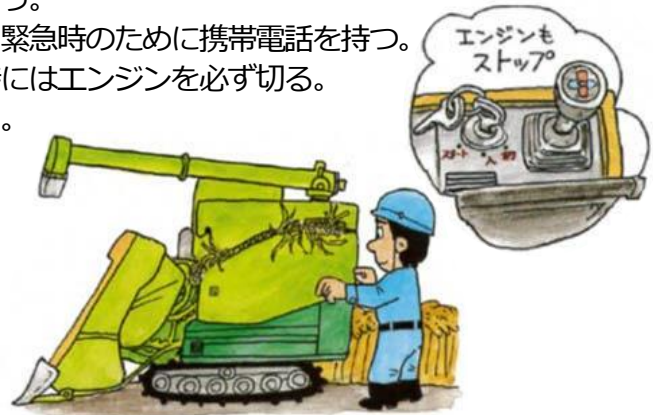
山菜・きのこのモニタリングは、森林林業部 林業課（☎24-6193）へお問い合わせください。

農作業事故にご注意ください！

本年、県内において耕耘作業中の農作業死亡事故が複数件発生しております。

みなさんの体は、自分一人のためのものではありません。今一度、家族や友達、地域の方のためにも、事故を起さないよう、以下の点に気をつけましょう。

- 計画をたて、体調を万全に整えて作業を行う。
- 家族や近所の方に行き先を伝える。また、緊急時のために携帯電話を持つ。
- 使用前に機械の点検、整備をする。点検時にはエンジンを必ず切る。
- シートベルト等の安全具を正しく着用する。



詰まったときは、必ずエンジンを切る

農薬適正使用について

今年度、いわき管内では、農薬誤使用や農薬飛散による事故が発生しております。農薬を使用するにあたってはもう一度以下のことに注意して適正な使用を心がけましょう。

- 1 農薬使用基準の遵守
使用に際してはラベルや最新情報を確認する
- 2 農作物等への使用状況確認
散布履歴の記帳、出荷前のチェック
- 3 農薬使用者の安全確保
調整や散布時の保護服の着用
- 4 周辺環境への配慮
散布時の飛散防止、環境・住民への危被害防止
- 5 農薬の保管管理の徹底
盗難、誤飲等防止のための在庫管理、施錠保管

葉物野菜の衛生管理の徹底について

生鮮野菜は、肉類と比べて微生物が増えにくく、食中毒を起こす微生物に汚染される可能性が低いと考えられます。しかし、海外では、生鮮野菜が原因と考えられる大きな食中毒事件が報告されています。生食用や漬物加工用の葉物野菜を生産する皆様にあつては、特に衛生的な管理をお願いします。

農林水産省では衛生上の注意すべき点をまとめた「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針」を公開しています。以下アドレスから入手できますので、衛生管理にお役立てください。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/pdf/sisin.pdf

イノシシ対策のポイント！

鳥獣被害対策は、個々で「点」として実施しても、対策をしていない隣接地に被害が分散してしまうため、集落でまとまり「面」的な対策をとることが重要です。そのために、まず以下のことを集落全員で認識しましょう。

- 1 イノシシの習性
 - 昼夜を問わずエサを求めて活動する
 - 味が濃厚なものが大好物
 - 行動範囲は2～3km
 - 交尾期は年1回12～2月頃、出産期は4～6月頃 等
- 2 正しい電気柵の設置方法
 - ガイシは畑の外に向ける
 - 電線の高さは地面から20cmと40cmを保つ
 - 舗装路からは50cm以上離して設置する
 - 電線に触れる雑草を除去する 等

水路際等、窪みのあるところは電線を増やす



電気柵設置の良い例

確認後、集落全体でエサとなる放任果樹や生ゴミの除去、電気柵の点検を行いましょう。捕獲よりもまず、イノシシを寄せ付けない集落にすることが重要です。

普及員からのひとこと

各担当主任からみなさまへ
お知らせです。



いわきの野菜は、福島県の中では珍しい秋冬主体の産地です。主力であるねぎ・トマト・いちご等、これから本格的な出荷シーズンを迎えます。冬でも太陽の恵み豊かないわき野菜を楽しみに日々活動しております。
(野菜特産主任：石井)



いわき市の稲作は魅力いっぱいです。栽培面では刈取り時期を長く確保出来る、流通面では消費量が多い関東圏に近い、そして地域性では平坦から中山間まで多様な米づくりが可能です。品種を上手に組み合わせ、高品質米を目指していきましょう。(作物主任：本田)



いわき梨は日照時間が長く、「サンシャインいわき梨」の名の通り、いわきの太陽の恵みを十分に受け甘く育った果実です。今後も栽培管理や防除をきちんと行い、高品質な梨を目指していきましょう。
(果樹主任：穴澤)

主な業務は農産物の花き類に関する支援や相談対応です。近年は、『りんどう産地の育成・拡大』を中心に、キク産地や鉢物生産者の支援等を行っています。*「新たに“花き栽培”で所得確保を試みたい!」方は、花き担当までご一報を!!
(花き主任：渡邊)



夏からの疲れがたまり、家畜も家禽も体調を崩しやすい時期です。忙しい時こそ、観察する時間を意識的に作り、異常の早期発見・対策をしてください。また、草地の管理では更新は適期に実施しましょう。晩秋の掃除刈り、苦土石灰や堆肥を散布し、来春の良質な草を確保しましょう。土壌診断に基づいた施肥をしましょう。土壌診断についてはお問い合わせください。(畜産主任：熊谷)

お知らせ

いわき農業青年クラブに 入りませんか!

いわき農業青年クラブ連絡協議会(以下青年クラブ)では会員を募集しています。

青年クラブは、若手農業者の集団で、食育活動や直売イベントへの参加や視察研修等を通じて、地域農業の魅力向上を目指しています。あなたも青年クラブに入り、ネットワークを広げませんか?興味のある方は、地域農業推進課までご連絡ください。

福島県農業経営相談所 が設立されました!

新たに福島県担い手育成総合支援協議会に「福島県農業経営相談所」が設立されました。農業の法人化や経営改善等に関する専門家による無料アドバイスを受けられる制度です。

御要望ありましたら、窓口の経営支援課までお越しください♪簡単な聞きとりからスタートします。

エコファーマーに なりませんか!

エコファーマーとは、持続農業法に基づき、5年後を目標にたい肥等を活用した土づくりと化学農薬の低減を一体的に行う持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画を作成し、知事の認定を受けた農業者の愛称です。エコファーマーが生産した農産物にはエコ農産物マークをつけることができます。エコファーマー、エコ農産物マークに興味のある方は、経営支援課までお問い合わせください。